

日本赤十字社の誕生を 語り継ぐジェーンズ邸



日本赤十字社 熊本県支部

いくつもの危機を乗り越えて

熊本城の一面に外国人教師の住宅として新築（明治4年～明治9年）

西南戦争のときに熊本城籠城戦となるが奇跡的に戦火を免れる（明治10年）

熊本城の石垣42ヶ所が崩落する震度6の金峰山地震で一部損壊（明治22年）

南千反畑町に移築（県の物産館、ロシア軍将校の捕虜宿舎等に使用）（明治27年～）

水道町に移築（日赤記念館となり日赤県支部で36年間使用）（昭和7年～）

熊本大空襲被害は免れたが、熊本大水害被災で老朽化進む（昭和20年、昭和28年）

水前寺成趣園東隣に移築（現存する県内最古の洋風建築・県指定重要文化財）（昭和45年～）

熊本地震で全壊（平成28年）

水前寺成趣園南隣水前寺江津湖公園の一角に移築、奇跡の復旧（令和5年～）





Birthplace of The Japanese Red Cross Society
&
Love's hand forever



西南戦争当時のジェーンズ邸



昭和7年から36年間「日赤記念館」として日赤熊本支部で使用



平成22年頃のジェーンズ邸



日赤発祥の建物になったジェーンズ邸

様々な人々が激動の時代の中で、「博愛・人道」の精神を願って翻弄し、
国内最後で最大と言われる「西南戦争」の最中に、
「熊本洋学校教師ジェーンズ邸」にて日本赤十字社の前身である「博愛社」が誕生しました。

【博愛社設立請願書(現代語訳)】

このたびの鹿児島県の反乱軍鎮圧は、簡単に収まる事件ではなく、開戦してからすでに四十日が過ぎ、攻撃は昼夜続き、死亡、負傷した兵士はものすごい数とのこと、戦地の状況を聞くと傍観していることはできません。そもそも戦死者は深く憐(あわ)れむのは当然のことではあるが、生き返らせることはできません。負傷者は苦痛で生死の境をさまよっている、あらゆる方法で救助することが必要だと思います。政府は必要な医療は整備しているとはいうものの、連日の激戦によって負傷兵は増え続け、手の届かないこともあると思います。

天皇陛下も大いに心配され何回も慰問の使いを送られています。皇后陛下もまた、多大の支援をなされているとのこと、臣下として感激しております。

つきましては、私共はこの状況において、これまで臣下である私達が受けたご恩を、万分の一でもお返しするため、組織を作り博愛社と名づけ、広く呼びかけて有志者の協賛を求め、社員を戦地に派遣し、陸海軍軍医長官の指揮を仰ぎ、政府軍の負傷者を救護したいと思います。

また、反乱軍の死傷者数は政府軍の倍であるばかりでなく、救護の方法も整っておりません。負傷兵を、雨露にさらして収容すること

もできないとのこと。この反乱軍兵士は、大義を見誤り、天皇軍と敵対しておりますが、わが国の国民であります。天皇の子供です。負傷して死ぬのをただ待っているのを顧(かえり)みないというのは、人としてできないことであります。収容し手当したいので、ご許可いただければ、皇室の寛大なお気持ちを内外にお示しするだけでなく、反乱軍兵士を感化することにつながるでしょう。欧米の文明国は、戦争のたびに募金をしたり、物資を送ったり、人を派遣して、敵味方の別なく救護をしています。

本件は一日の遅れも幾多の人命に影響することから、即決で急ぐ必要がありますので、なにとぞ当方の真意をお汲み取りいただき、ご指令くださるよう社則一通を添えてお願いする次第です。

明治十年五月三日

議官 佐野 常民

議官 大 給 恒

征討総督ニ品親王有栖川熾仁 殿

許可します。

詳細は軍医部長と打ち合わせること。

五月三日

(親王真筆朱書)

※東京で不許可となった4月6日付け右大臣岩倉具視(いわくらともみ)あての設立請願書と同文で、熊本県の野紙に佐野の真筆で提出されました。

熊本洋学校教師ジェーンズ邸での博愛社設立の様子



「博愛社設立許可の図」

制作者・制作年不明 (日本赤十字社蔵)

救護所の様子(熊本・八代・人吉・長崎・鹿児島・宮崎)



「博愛社救護所の図」

T.UCHINO 制作年不明 (日本赤十字社蔵)

現国立病院機構熊本医療センター

現熊本県立第一高等学校





「博愛社設立請願書」
明治10年5月3日付



ありすがわのみやたるひとしんのう
有栖川宮 熾仁親王
(博愛社設立を熊本で許可)



ひがしふしみのみやよしあきしんのう
東伏見宮嘉彰親王
こまつのみやあきひとしんのう
(後の小松宮彰仁親王)
(博愛社の初代総長)

敵・味方の別なく救う
人道の精神は熊本から



「田原坂の戦いの図」
T.UCHINO 制作年不明 (日本赤十字社蔵)



激戦が行われた田原坂方面

熊本城を中心に歴史を語り継ぐゆかりの地が広がる





赤十字の思想を胸に 「博愛社」から「日本赤十字社」へ

日本人がヨーロッパで知った赤十字の誕生とその広がり。

「赤十字のような事業が盛んになることをもって文明開化の証としたい。」(佐野常民)

ヨーロッパの赤十字に習い熊本で誕生した「博愛社」が、

その10年後に、明治政府のジュネーブ条約調印により、「日本赤十字社」に改称しました。

■クリミア戦争 1853年～1856年

ナイチンゲール(1820.5.12-1910)
クリミア戦争で包帯やガーゼを作り
看護婦を集め、トルコイスタンブール
に赴き、イギリス軍に従軍。赤十字の創
設に影響を与える。



■ソルフェリーノの戦い 1859年6月24日

アンリー・デュナン(1828.5.8-1910)
仕事で旅行中にフェリーノの戦い(イタリアの統一戦
争)に遭遇。婦人達を集め教会などで救護活動を行う。
「傷ついた兵士は、もはや兵士ではない、人間である。人
間同士として、その尊い生命は救わなければならない。」
帰国後に赤十字の創設を訴える。



■国際赤十字の誕生 1863年

- ソルフェリーノの思い出(1862年) アンリー・デュナン著
「この平和で穏やかな時代に、戦争の時の負傷者を看護する目的で、
そういう慈善事業のために、献身的専門的で、かつ意欲的なボランティ
アをもって、救護組織を作る方法はないものであろうか?」
- 5人委員会の設立(1863年)
赤十字の誕生。後に国際赤十字委員会と改称。
- ジュネーブ条約に12カ国が加盟(1864年)



■パリ万国博覧会 1867(慶応3)年4月1日～10月31日

【パリ万国博覧会の赤十字パビリオン】

日本が初めて出展参加した
万博で赤十字と出会う。アンリ
ー・デュナンも参加し赤十字を
紹介。
徳川幕府、薩摩藩、佐賀藩
が参加。佐野常民は、佐賀藩代
表として参加しました。



■ウィーン万国博覧会

1873(明治6)年5月1日～11月1日

【ウィーン万博派遣団】

佐野常民を団長に
約100人が参加。赤十
字加盟国がそれぞ
れの自国のパビリ
オンで普仏戦争(1870～
1873年)での赤十字
活動を紹介。



(有田町歴史民俗資料館蔵)

佐野は赤十字の広がりを目をみはる。

■国際赤十字委員会を訪問

【岩倉使節団】1871(明治4)年11月12日～1873(明治6)年9月13日

欧米12カ国に派遣された使節団で、書記官
や留学生など107人で構成。

【スイス・ジュネーブを訪問】

岩倉使節団はウィーン万国博覧会の視察後、
スイスの首都ベルンで大統領から進められ、
ジュネーブの五人委員会本部を訪問。滞在を
延期し、ギュスタフ・モワニエと面談し、赤十字
に理解と興味を示し、以後、連絡を取り合うこ
とを約束。



■西南戦争

1877(明治10)年2月15日～9月24日

戦死者の半数が短期間に熊
本城より以北に集中。重症者は
久留米、長崎、大阪へ搬送。

兵力:政府軍 約60,000人

薩摩軍 約31,000人

死者:政府軍 約 6,900人

薩摩軍 約 7,100人



【高瀬の死傷者を南関に送る図】
(川口武定著「従征日記」2月27日の絵)

■皇太后陛下御自ら綿撒糸等御製作

明治天皇の皇后(後の昭憲皇太后)は、西南戦争の負傷者に対する天皇から
の見舞い品に、手製の綿撒糸(ガーゼ状の繻帯)を加えて、征討総督有栖川宮熾
仁親王に託される際、「官賊の別なく用ひしめ
よ」との言葉を添えられました。

太政大臣三条実美と右大臣岩倉具視は皇
室の恩恵に感激して、クリミア戦争時のイギリ
スの看護婦(ナイチンゲール)と欧州の皇后の
例をあげ、華族たちに檄文を送り、包帯などの
制作や寄付金を募りました。(東京曙新聞)





■救護団体「博愛社」の設立運動



【元老院議員・佐野常民(さのつねたみ)】

慈愛の義務を果たし、山野に散り治療も受けられずに死を待つだけの戦傷者を一刻も早く救うため、欧州の赤十字に習って、一般からの社員と出資で作る救護団体「博愛社」の設立を提案。



【元老院議員・大給恒(おぎゅうゆずる)】

華族会で寄付金を集め包帯等を作りながら、この際会社を創り、華族会で病院経営をすることを提案。佐野常民と話し合い、連名で「博愛社設立請願書」を右大臣岩倉具視に提出。

■戦地熊本で「博愛社」設立の命令が下る

博愛社設立は、戦地が混乱するという理由から東京で不許可となったため、佐野常民が熊本城を訪れ、征討総督本営で参軍 山縣有朋と高級参謀 小澤武雄に相談し、有栖川宮熾仁親王殿下に直裁を仰ぎました。殿下は大いにお喜びになり、即日(1877(明治10)年5月1日)に設立の命令を下し、5月3日に許可されました。

■「博愛社」の救護活動

西南戦争における博愛社の救護活動は、熊本城内の総督本営を中心とした佐野常民の実行力により、1877(明治10)年5月27日から熊本の地で始まり、軍医監たちの協力により、長崎、鹿児島、宮崎へと広がりました。

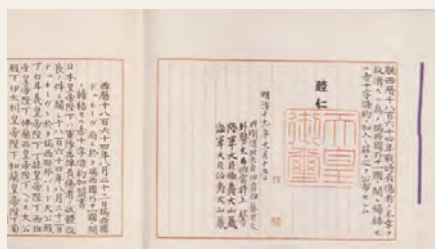
その後、大給恒らにより東京に本部が置かれ、熊本、長崎、鹿児島及び大阪に支局が設置され、同年10月31日まで救護活動が続けられました。その間救護した患者数は1,429人、従事した救護員は延べ159人(実数は125人)におよびました。

■ジュネーブ条約への加入 1886(明治19)年11月15日

【ジュネーブ条約公布書】

ジュネーブ条約は、傷ついた兵士や武器を持たない個人などに対して攻撃してはならないことを国家レベルの約束事とした国際ルールです。中立や保護を意味する赤十字マークの使い方などが記されています。

日本がジュネーブ条約に加入すると、博愛社は1887(明治20)年に、日本赤十字社に改称し現在に至っています。



(国立国会図書館蔵)

博愛社設立に携わった熊本ゆかりの人



(熊本県立図書館蔵)

【肥後国熊本藩主・細川護久(ほそかわもりひさ)】

熾仁親王に度々拝謁していた細川護久は、博愛社に協力して医師の三浦齊と竹寄孝薫を派遣しました。竹寄医師は、戦争終了後も水俣でコレラ撲滅のために博愛社で活動を続けました。



(熊本県立図書館蔵)

【熊本県権令・富岡敬明(とみおかけいめい)】

1876(明治9)年11月に熊本県権令となり、翌年の2月に西南戦争に遭遇すると、熊本城で鎮台司令長官谷干城(たにたてき)らと籠城戦をともにしました。5月に佐野常民と出会うと博愛社の社員となり、7月からは博愛社の熊本支局長として協力しました。



熊	本	地	震	と
日	赤	の	活	動

全国の赤十字が一丸となって
熊本地震からの復興を目指した



熊本地震で崩壊したジェーンズ邸



全国から集まった赤十字救護班



全国から集まった赤十字救護車輛



被災地各地に搬送された赤十字救援物資



地域医療と連携して
被災地に展開された赤十字仮設診療所

*赤十字は皆さまから託されたご寄付を財源として
災害救護活動を行っています。

日本赤十字社100周年記念碑「愛の手とこしえに」



日本の赤十字活動は 1877(明治10年) 西南の役の際 熊本の地において敵と味方の別なく負傷者を救護したことにはじまる 創立100周年にあたり先人の注いだ情熱と遺業をしのび 赤十字活動の発展を祈念して この碑を建立する

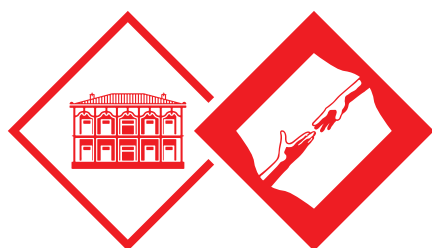
1977年5月 日本赤十字社 社長 東 龍太郎

ジェーンズ邸を舞台に誕生した博愛社(のちの日本赤十字社)。

「愛の手とこしえに」は、日赤100周年の記念碑として建立されました。

差し伸べられた手が人道、博愛といった赤十字精神の本質を表し、水面に浮いているかの

ような造形は、いかなる岸边にも寄らない赤十字の不偏、中立の姿勢を表現しています。



Birthplace of The Japanese Red Cross Society
&
Love's hand forever

今回のジェーンズ邸再建を機にジェーンズ邸と日本赤十字社のつながりを多くの方に知ってもらうため、シンボルマークを作りました。

ジェーンズ邸の横に並んでいるのは日本赤十字社100周年記念碑「愛の手とこしえに」。熊本の歴史を伝えるジェーンズ邸とともに、赤十字の精神を広く伝えたいとの思いを込めました。

熊本洋学校教師ジェーンズ邸のごあんない

- 所在地 熊本市中央区水前寺公園12-10
- アクセス 熊本市電「市立体育館前」下車徒歩3分
- 開館時間 9:30～16:30
- 休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)
年末年始(12月29日～1月3日)



編集・発行／  日本赤十字社 熊本県支部

〒861-8039 熊本市東区長嶺南2丁目1-1 TEL.096-384-2100(代表)

2023年9月1日 第1刷発行 ©日本赤十字社熊本県支部2023



Official Site



Instagram